

市民参加の軌跡①

平成13～14年度

新潟駅駅舎・駅前広場計画提案競技

平成13・14年度に実施した「新潟駅駅舎・駅前広場計画提案競技（以下コンペ）」。二段階審査方式で実施されたコンペでは、県民・市民の想いが活かされたものとなるよう、市民参加を取り入れながら、出来得る限りその過程を公開していきました。（図1）

市民参加を取り入れるにあたっては、コンペにより多くの市民の想いを反映させるため、市民と主催者との橋渡し役的な存在として活動する組織「新潟駅コンペ市民窓口委員会（以下「市民窓口委員会」）」の設立から運営をNPO法人「まちづくり学校」に委託しました。

応募要項の作成にあたっては、市民窓口委員会が公募市民による意見交換会を開催するなどして広く意見を募集し、コンペ応募要項別冊として「市民の想い」をとりまとめ、応募者が作品に市民の想いを取り入れることができるようにしました。



基本的コンセプトやイメージ図等により審査された第一段階では、海外からも含め125作品の応募があり、5作品を選定して審査会を終了。



その後、市民窓口委員会が、市民と第一段階審査通過者とのワークショップ形式の意見交換会を開催するなどし、市民の意見をさらにとりまとめ「応募要項（第二段階）別冊市民の想いII」を作成し、第一段階審査通過者に伝えました。

第二段階審査会では、第一段階審査通過者が統括する建築・土木・都市計画・造園の専門家からなる共同体を構成してもらい、詳細な図面や模型等を提出してもらった上で、審査を行いました。新潟市内の芸術文化会館「りゅーとびあ」の能楽堂で、完全公開で行われた第二段階審査会。「市民との対話能力」も評価の視点に含まれた審査会は、多くの市民やマスコミが見守る中、堀越英嗣氏グループの作品を最優秀作品に選定し、2カ年に及び競技を終了しました。

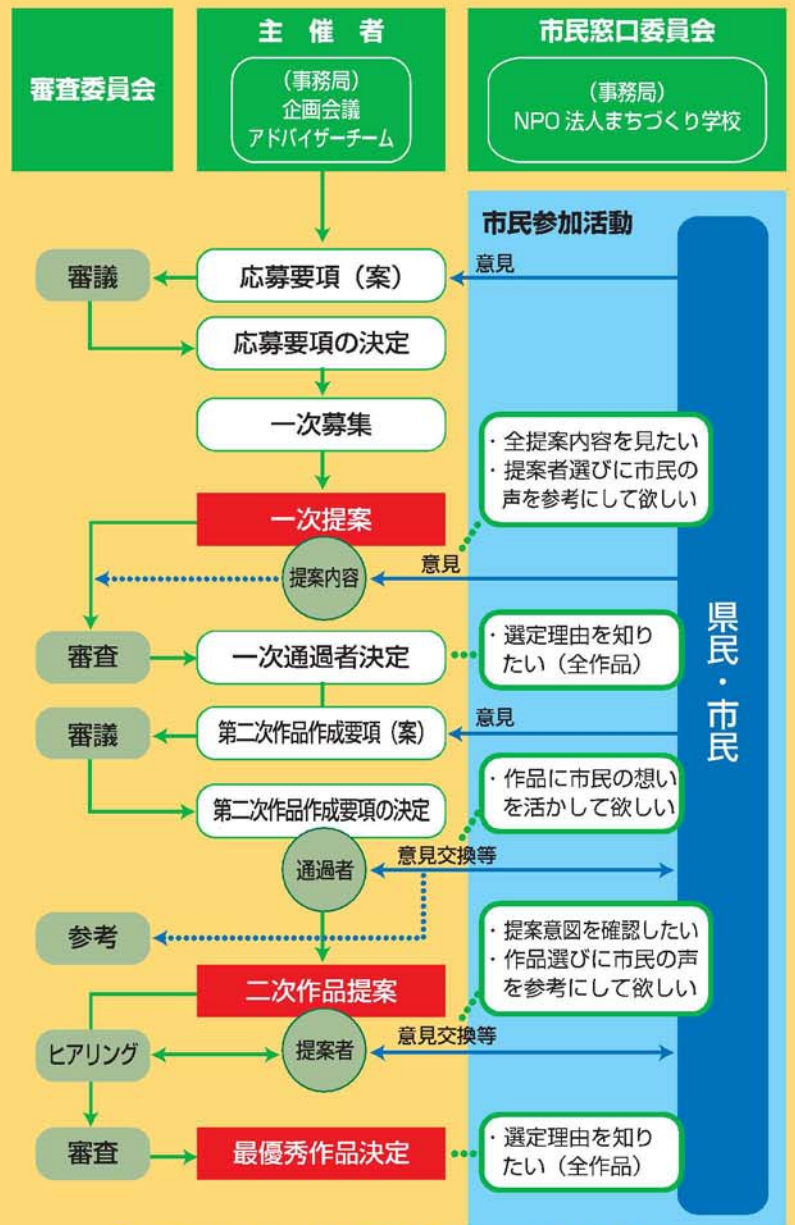


図 新潟駅駅舎・駅前広場計画提案競技のプロセス

